

# 自動運転・隊列走行BRTによる 次世代モビリティサービスの実現を目指して

鉄道本部  
イノベーション本部

近藤 創



キーワード BRT、自動運転、隊列走行、地域交通

## 01 はじめに

「まちづくりと連携した持続可能な地域交通としての次世代モビリティサービスを実現する」という決意のもと、私たちは自動運転・隊列走行BRT (Bus Rapid Transit: バス高速輸送システム)の開発プロジェクトをスタートしました。

このプロジェクトでは、日本初となる「連節バス」の自動運転や、自動運転バス車両の「隊列走行」(図1)といった、当社にはノウハウの蓄積が無い技術を開発することになるため、ソフトバンクを共同開発パートナーとし、様々な会社と連携しながらオープンイノベーションを進めています。

今回は、自動運転・隊列走行BRTが目指す姿、専用テストコースでの実証実験の内容についてご紹介します。



図1: 隊列走行の実現イメージ

## 02 自動運転・隊列走行BRTが目指す姿

BRTは、文字通り「速達性」をもったモビリティです。それを安全に、そして定時性を確保して実現するために、「専用道」を走行することになります。

一方で近年自動車の自動運転技術の開発が盛んにおこなわれています。ただし、一般車両や歩行者等との混在空間での自動運転実現にはまだ技術的ハードルがあるのが現状です。その点で「専用道」は、自動運転・隊列走行という新しい技術の社会実装を早期に実現するために有用なツールであると考えています。

この「自動運転・隊列走行×道路インフラ」という組み合わせによって、需要に応じた柔軟な輸送力の確保、他の交通手段と連携した一体的でフラットな交通網の実現、運転手の担い手不足の解消、シンプルな設備によるローコストなモビリティサービスの実現など、利用者、地域そして事業者にとってもメリットのあるモビリティを目指していきます。

## 03 専用テストコースでの実証実験の内容

この隊列走行という技術について、トラックでは実証実験が行われていますが、バス車両を用いて行うことは国内でも初の試みとなります。地上インフラも含めた最適なモビリティシステムのあり方の検討や、実証をより行いやすい環境の構築のために、今回滋賀県野洲市にある当社車両基地内に専用テストコース(図2)を用意し、実証実験を行うことにしました。



写真1: 野洲テストコース施工状況

実証実験の項目としては、自動運転・隊列走行に関する車両の技術検証のみではなく、自動運転・隊列走行に適した走行環境・地上設備の検討や、乗降場への正着制御や車両の遠隔コントロールなどの運用面の検討も行います。そして、それらについて、様々な環境下における比較検証を行い、事業性の検討も進めていきます。

## 04 おわりに

本実証実験を通じて、2023年の技術確立を目指すとともに、まちづくりと連携しながら持続可能なモビリティを検討している皆様との対話を進め、早期の社会実装を目指します。



ご相談・問い合わせは下記リンク先からお願いします。  
【<https://www.westjr.co.jp/company/action/technology/vision/techweb/company01.html>】